

社会のデジタル化と金融・証券市場の未来

山 藤 敦 史 CMA

目 次

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 金融・証券市場の機能の再検討 | 6. 投資に必要な情報とは |
| 2. 多様化する資金調達手段 | 7. チャンネルの変容 |
| 3. 証券／デリバティブとは | 8. 持たない世界へ |
| 4. 信用モデルの変化 | 9. 分散と集中の振り子 |
| 5. マッチングとは | 10. 証券市場におけるDX |

1. 金融・証券市場の機能の再検討

本日の講演は、抽象的な議論が多くなる可能性があるが、未来を考えるヒントになればと考えている。テクノロジーの変化は、多くの産業で革新をもたらしている。例えば、地図を調べる際、スマートフォンでルート検索をすることが可能だ。本は本屋で買うこともあるが、電子書籍で読む人が増えている。自動車の自動運転への変化は新聞紙面を賑わせており、実際に機能が実装されつつある。こうした革新は、顧客、技術、データの三つの変化からもたらされている。

金融もその例外ではない。まず、競争環境が変化してきている。非金融系のサービスが圧倒的に効率化しているため、金融は相対的に非効率にみ

えてしまうが、新たな金融システムによって決済の革新、資金調達の革新が起き、新たな信用構造も出現している。こうした中、サービス供給者は金融のプロに限られなくなり、データをベースにしたエコシステムも出現し始めている。これらに対応するため、金融機関側でも様々なチャレンジが行われている。例えば、スマートフォンのフィールドに進出するなど、チャンネルを再構築する動きがある。また、技術変化の取り込みを事業課題とする企業も多い。これまでは金融機関同士の競争という文脈が多かったが、最近では異業種やスタートアップとの協業のほか、競争関係にあるはずの金融機関とコンソーシアムを作る流れもできてきており、データやコミュニティの形成機能を基盤にしてプラットフォーム戦略を立てる企業



山藤 敦史（さんとう あつし）

日本取引所グループIT企画部長兼総合企画部フィンテック推進室長。1995年神戸大学経済学部卒業、2003年一橋大学国際企業戦略研究科（ICS）修士課程修了。1995年東京証券取引所入社、2008年同派生商品部課長、2011年同マーケット営業部課長、2015年日本取引所グループ新規事業推進室課長、2018年同フィンテック推進室長、2020年4月現職。

（本稿は2020年12月15日に日本証券アナリスト協会にて収録し、2021年1月に動画配信した講演会の要旨である。）